


 NPO
CCFHS

NPO法人

食科協ニュースレター 第239号

目次

【食科協の活動状況】

2023年5月～2023年6月の主な活動(先月報告以降) 2

【行政情報】

1 粉ミルク中のクロノバクター・サカザキについて (Q&A) 公表

2 トランス脂肪酸～リスク評価の意味を知ってほしい

3 令和5年度食品、添加物等の夏期一斉取締りの実施について

4 食品ロス量(令和3年度推計値)を公表

NPO法人 食品保健科学情報交流協議会
顧問 森田 邦雄 3-4

【2023年度第1回理事会及び第21回総会報告】

4-8

【代表理事に就任して】

NPO法人 食品保健科学情報交流協議会
新理事長 加地 祥文 9-10

【理事長退任ご挨拶】

NPO法人 食品保健科学情報交流協議会
前理事長 馬場 良雄 10

令和 5年6月27日

特定非営利活動法人 食品保健科学情報交流協議会

〒135-0004 東京都江東区森下3-14-3、全麵連会館2階 TEL 03-5669-8601 FAX 03-6666-9132

<http://www.ccfhs.or.jp/> E-Mail NPO2002-fhsinfo@ccfhs.or.jp

【食科協の活動状況】**1. 2023年5月～2023年6月の主な活動**

5月26日	かわら版394号・かわら版ニュース&トピックス338号を発行
5月26日	ニュースレター238号発行
5月30日	かわら版ニュース&トピックス339号を発行
6月02日	かわら版395号・かわら版ニュース&トピックス340号を発行
6月06日	かわら版ニュース&トピックス341号を発行
6月09日	かわら版396号・かわら版ニュース&トピックス342号を発行
6月13日	かわら版ニュース&トピックス343号を発行
6月14日	食科協会員研修会開催
6月16日	かわら版397号・かわら版ニュース&トピックス344号を発行
6月20日	かわら版ニュース&トピックス345号を発行
6月23日	かわら版398号・かわら版ニュース&トピックス346号を発行
6月27日	かわら版ニュース&トピックス347号を発行
6月27日	ニュースレター239号を発行
6月30日	かわら版399号・かわら版ニュース&トピックス348号を発行

研修会は盛況のうちに終了いたしました
ありがとうございました

今年度の年会費をお支払いください
年会費は5,000円です

郵便振替の場合 最寄りの郵便局にて
00190-6-558387
特定非営利活動法人食品保健科学情報交流協議会
または NPO 法人食科協
両方で登録してあります

銀行振込の場合 三菱 UFJ 銀行深川支店
普通預金口座番号 1631361
名義人
特定非営利活動法人食品保健科学情報交流協議会
(トクテイヒエイリカツドウホウジンシヨクヒンホケンカガク
シヨウホウコウリュウキョウギカイ)
または NPO 法人食科協 (NPO ホウジンシヨッカキョウ)
両方で登録してあります

【行政情報】

NPO 法人 食品保健科学情報交流協議会
顧問 森田 邦雄

1 粉ミルク中のクロノバクター・サカザキについて（Q&A）公表

5月31日、食品安全委員会は表記（Q&A）を公表した。

クロノバクター・サカザキ（*Cronobacter sakazakii*）は、ヒトや動物の腸管、食品や自然環境に広く分布する細菌で、国立予防衛生研究所（現国立感染症研究所）に所属し腸内細菌の研究で世界的に知られていた坂崎利一博士の功績をたたえ、米国人科学者が名付けました。

以前はエンテロバクター（*Enterobacter*）属に分類されていましたが、2008年にクロノバクター属に再分類されました。菌株のわずかな遺伝子の違い、菌が含まれる食品の成分などにより耐熱性が変化し、6℃～47℃で増殖が可能で、乾燥した環境下でも長期間生残するとの報告もあり、特に次の注意を呼び掛けている。

粉ミルクは無菌とは限りません！飲む直前に70℃以上のお湯で調乳し、速やかに消費しましょう。

https://www.fsc.go.jp/foodsafetyinfo_map/c_sakazaki_FAQ.html

2 トランス脂肪酸～リスク評価の意味を知ってほしい

6月2日、食品安全委員会は表記について掲載した。その主な内容は次の通り。

トランス脂肪酸を多く食べると、冠動脈疾患（狭心症や心筋梗塞など）の発症が増加する

日本人の推定平均摂取量は、総摂取エネルギー量の0.31%。WHOの勧告（目標）基準であるエネルギー比1%未満を下回り、通常の食生活では健康への影響は小さい

マーガリンなどの含有量は、近年大きく下がっている

製品のトランス脂肪酸含有量を下げると、飽和脂肪酸が増える傾向がある。飽和脂肪酸も冠動脈疾患リスクを上げる

栄養バランスのよい食事が、トランス脂肪酸対策となる

https://www.fsc.go.jp/iinkai/20shunen/01_toransushibosan.html

3 令和5年度食品、添加物等の夏期一斉取締りの実施について

6月8日、厚生労働省は大臣官房生活衛生・食品安全審議官名をもって各都道府県知事等宛てに標記通知を出した。その主な内容は次の通り。

食品衛生法第22条の規定に基づく食品衛生に関する監視指導の実施に関する指針第3の六に基づき、夏期に多発する食中毒の発生防止を図るとともに、積極的に食品衛生の向上を図る見地から、全国一斉に標記取締りを行うこととしましたので、別添の実施要領

に基づき遺漏なく実施するようお願いいたします。（別添は未公表、時期は例年7月一杯）

本実施要領は、夏期一斉取締りの実施に当たっての基本的事項のみを示しているため、各都道府県等において、都道府県等食品衛生監視指導計画等に基づき、適宜事項を追加して実施してください。

<https://www.mhlw.go.jp/content/001104798.pdf>

4 食品ロス量（令和3年度推計値）を公表

6月9日、農林水産省は表記について公表した。その概要は次の通り。

農林水産省は、食品ロス削減の取組の進展に活かすため、食品ロス量の推計を行い、消費者庁、環境省とともに公表しています。

令和3年度の食品ロス量は523万トン（前年度比+1万トン）、このうち食品関連事業者から発生する事業系食品ロス量は279万トン（前年度比+4万トン）、家庭から発生する家庭系食品ロス量は244万トン（前年度比▲3万トン）となりました。

今後とも事業者や消費者、地方公共団体、関係省庁とも連携し、より一層の食品ロス削減のための取組を進めてまいります。

<https://www.maff.go.jp/j/press/shokuhin/recycle/230609.html>

【2023年度第1回理事会及び第21回総会報告】

NPO法人食品保健科学情報交流協議会（NPO法人食科協）では、「新型コロナウイルス感染症」により、定例の第1回理事会及び総会については、資料の送付と同時にFAX及び電子媒体メールによる議決権行使を行うこととされました。コロナ感染症が5類感染症となりましたが、今年もこれを踏襲することとして6月14日に開催しました第1回理事会及び21年度定例総会について下記のとおり報告をさせていただきます。

なお、今年度は例年の総会と同様に会員研修会を開催いたしました。

記

1 2023年度第1回理事会の開催結果について

2023年6月14日11時から一般財団法人科学技術連盟本部 ROOM-Eにおいて、理事会を、馬場理事長、渡邊専務理事、榎元理事、西理事、加地理事、佐仲理事、中川監事及び事務局（北村運営委員、飯塚運営委員）の参加にて開催し、Webシステムにより同時配信し、総会審議事項に対する最終的な確認を行いました。

提出された総会議案に対し、第1号及び第2号議案について質疑の後、会場及びWeb参加者の挙手並びに議決権行使書の集計を合わせ多数であることから議決されました。第3号議案「役員改選」については、総会において意見を求められることを想定した役員人事案を提案することとしました。

なお、第4号議案及び報告事項は「なし」ということでした。

また、NPO法人食科協の令和4年5月1日現在の理事数は12名であり、理事数の過半数以上の出席があり、理事会は成立しています。

（集計結果：議決権行使者11名、委任状提出者1名、合計12名）

2 NPO法人食科協第21回（2023年度）総会の開催結果について

総会は2023年6月14日12時から一般財団法人日本科学技術連盟本部 ROOM-Eにおいて、理事会に引き続き、新型コロナウイルス感染症が5類感染症とされましたが、第1回理事会と同様の方式により開催いたしました。

会場参加者は、馬場理事長、渡邊専務理事、榎元理事、西理事、加地理事、佐仲理事、中川監事及び事務局（北村運営委員、飯塚運営委員）、関澤顧問、森田顧問、立石運営委員、背黒運営委員、村松運営委員他一般会員が参加いたしました。総会参加者は会員107名の

ところ、Web システム及び委任状参加者を含め 67 名にて、総会が成立したことを報告します。

なお、総会の議決は定款第 27 条第 2 項により、出席した正会員の過半数を持って決し、可否同数のときは、議長の決するところによるとされております。

総会の経過

- ・開会挨拶 渡邊専務理事
- ・理事長挨拶 馬場理事長

第 21 回総会開催にあたり一言ご挨拶申し上げます 昨年 6 月に食科協は 20 周年を迎え、記念事業等開催する事が出来ました事会員の皆様、賛助会員の皆様のご支援ご指導の賜と、改めて御礼申し上げます。20 周年食科協コミットメントに記した通り、世界情勢、社会環境、法規制等は大きく変化し続けており、その変化への対応が求められます。変化はチャンスだとよく言われています。

しかし、日本は 1990 年からの失われた 30 年と言われる中、変化への対応は適切であり十分だったのでしょうか。政治が悪いとか規制が多すぎる等議論されていますが、行政の指示あるいは指導を求め、自主的に行動しない日本人が多いことが大きな背景にないでしょうか。

この自主的行動という事が食品衛生の面でも求められています。2018 年改正の食品衛生法の中で HACCP による衛生管理の原則義務化もその一つでした。この目的は国際的整合性と競争力の強化と共に食品企業が自主的に衛生管理を強化しスパイラルアップを求めるものであったと思います。本日は会員研修会として今一度 HACCP と一般衛生管理の重要性について講演頂きます。

この何年かはまさに変化の時代でした。食品産業においてもコロナ禍を経験して多くの対応をしてきました。外食産業は非常にご苦労されたでしょうが、変化をチャンスとした企業もたくさんあると思います。諸物価の高騰の中、居酒屋等では人材不足が懸念されております。失われた 30 年の間停滞していた賃金を引き上げる企業も増えてきております。この変化がチャンスになるよう対応されることを心から願っております。

NPO 食科協も 20 年を経過し継続すべきは継続し、変えるべきは変えて次の 10 年に向かう必要があると思います。IT の発展によっていろいろな人が、色々な情報を発信しております。食品に係る科学的で正しい情報を適切に発信する事が、NPO 食科協に強くもとめられると思います。会員の皆様のご指導ご協力によって食科協がますます活発な活動を継続できることを願って総会開会に当たっての挨拶とさせていただきます。

議事録署名人の選出 村松寿代氏、佐々木儀夫氏

議事は、あらかじめ各会員に送付した総会提出議案に基づき、事務局からの概要説明をもとに審議した。

議 題 1

第 1 号議案 2022 年度事業報告（案）及び収支決算報告（案）について

事務局から議題の内容について、以下の説明をした。

- ・2022 年度はコロナ感染症が世界的にマスク非着用が拡散され、我が国においても終息に向かったかの状況で新年度には感染症 5 類へ移行されることとなり、マスク着用が緩和された。
- ・食科協の活動は、会議及び講演会を小会場で実施するとともに Web システムによる同時開催をいたしました。

- ・改正食品衛生法が全面施行され1年を経過したが、食品事業者や食品衛生監視員への支援を継続的に実施することとした。
- ・20周年を迎えるにあたり、記念事業として、これからの10年の活動方針としてのコミットメントを見直した。
- ・今年度からの新事業として「わかりやすい食品衛生の手引」の編集を継続し受託した。

収支状況	予算	執行状況	収支差額（単位円）
・収入合計：	3,904,002	4,481,868	577,866
・支出合計：	2,993,630	3,018,974	25,344
・次期繰越：	910,372	1,462,894	552,522

主な事由

コロナウイルス感染症の影響は講演会事業をWebシステムによる講演会などで大幅な減収とならずに済み、わかりやすい食品衛生の手引編集の受託により収入増となった。

中川監事から監査報告がされ、問題・指摘事項はありませんでした。

質疑の後、第21回総会議案第1号議案は採決の結果、賛成多数であり、承認された。

第2号議案 2023年度事業計画（案）及び収支予算（案）について

事務局から議題について、以下の説明をした。

- ・食科協は20周年を記念し、活動方針（コミットメント）を発表し、これを基に活動することにより、活性化し、組織強化を図る。
- ・リスクコミュニケーションの重要性を認識することにより、食の安全にかかわるリスクへの対応を食品事業者、食品衛生監視員とともに進め、新たな視点としての食品安全文化の醸成に尽力したい。
- ・昨年度からの新たな事業である「わかりやすい食品衛生の手引」の編集に幅広く関係者が関わることにより、講演会活動以外の継続的な事業として、普及支援活動の幅を広げて、会費によらない事業拡大を工夫してまいりたい。
- ・新型コロナウイルス感染症により、大会場における講演会等が開催できなかったが、小会場とWeb併用することにより遠方の参加者を増やすことができたので、この方式による講演会開催についてより効果的等となるよう検討してまいりたい。

収支状況	前年度決算	予算	収支差額（単位円）
・収入合計：	4,481,868	4,082,902	-398,966
・支出合計：	3,018,974	2,658,580	-360,394
・次期繰越：	1,462,894	1,424,322	-38,572

主な事由

コロナウイルス感染症の状況も好転の様相を示したところから、旧に復し年度内に3回の講演会等の開催を目指すとともに、情報提供技術指導事業として「わかりやすい食品衛生の手引」編集業務の受託を継続することとした

質疑の後、第21回総会議案第2号議案は採決の結果、賛成多数であり、承認された。

第3号議案 役員改選について

事務局から議題について、以下の説明をした。

- 2022年度においては、20周年事業実施のために改選期であった人事を凍結したために、今年度は任期2年の途中であるが改めて見直すこととします。
- また、役員の皆様のうち、企業や団体等の状況により辞退される方がいるため、その後任等の選定をするものです。
- さらに、人事が硬直しているので、これを機会に人事の刷新を行い、幅広い意見を多く取り入れる体制を築くことが重要と考えます。
- 役員になられる方には、当面、本会がボランティア活動であることの認識を頂くことにご理解いただくようお願いしております。

質疑の後、第21回総会議案第3号議案は採決の結果、賛成多数であり、次のとおり承認された。

2022～2023年度役員

(2023年6月改選)

理事長 加地祥文
 専務理事代行 立石亘
 常任理事 大道公秀 北澤裕明 口地真知子 小暮実 脊黒勝也 西慶一 森田満樹
 理事 馬場良雄 広田鉄磨 渡邊清孝
 監事 中川則和 小俣勇
 顧問 推薦なし

第4号議案 その他

事務局から、予定された議案はない旨報告がありました。

その後、議長は参加者の皆様に対して、要望等のご意見を求めたが、挙手がなく議長は議事の終了を宣言しました。

以上で総会は終了しました。

NPO 法人食品保健科学情報交流協議会役員名簿

(2023年6月14日)

職名	氏名	所属	備考
理事長	加地 祥文	公益社団法人日本食品衛生協会食品衛生研究所	新任
専務理事 代行	立石 亘	日本食糧新聞社	新任
常任理事	大道 公秀	実践女子大学	
	小暮 実	食品衛生アドバイザー	
	西 慶一	一般財団法人日本食品検査	
	森田 満樹	消費生活コンサルタント	
	口地 真智子	フジパングループ本社株式会社	新任
	北澤 裕明	日本女子大学家政学部食物学科	新任
	脊黒 勝也	一般財団法人日本添加物協会	新任

理事	広田 鉄磨	一般社団法人食品品質プロフェッショナルズ	
	馬場 良雄	NPO 法人食品保健科学情報交流協議会	前理事長
	渡邊 清孝	有限会社フード・セイフティ・コンサルティング	前専務理事
監事	中川 則和	中川技術士事務所	
	小俣 勇	自営業	

NPO 法人食品保健科学情報交流協議会運営委員名簿

(2021年6月14日)

氏名	所属	備考
河合 保	株式会社アルボース	賛助会員
北村 忠夫	食の安全コミュニケーター	委員長
後藤 康慶	一般財団法人日本食品検査 関西事業所	
佐々木 儀夫	SSKアドバイス	
平山 聖二	株式会社千葉衛生科学検査センター	
藤平 幸男		
見富 信祐	一般財団法人日本科学技術連盟	
村松 寿代	東京サラヤ株式会社	賛助会員
本吉 優希	東京サラヤ株式会社	賛助会員新任
飯塚 みはる		事務局



【代表理事に就任して】

NPO法人 食品保健科学情報交流協議会
新理事長 加地 祥文

6月14日に開催されました第21回（2023年度）総会におきまして、理事長に選任されました。馬場前理事長の後を受けて、新たに次の30年目に向けて「食科協」の活動に尽力してまいりたいと決意しております。

昨年度は馬場前理事長のもとで20周年を迎えることができました。コロナ禍の中での困難な時期にあっても活動を継続してこれたのも、ひとえに理事、運営委員、事務局、会員の皆様の熱心な努力の賜物と考えています。

思い起こせば、21年前の2002年、伊藤蓮太郎氏が中心となって当協議会を立ち上げられた頃は、私自身は海外赴任から帰国した直後でしたが全国的な牛海綿状脳症の検査結果が報告されてきて、記者会見等で厚労省の監視安全課は騒然とした雰囲気でした。そのような状況のなか週に1回ほど伊藤さんが課の入り口に掲示してある通知類のコピーを収集にいられていました。こちらが忙しくしていたようなので伊藤さんも遠慮されて、コピーを手にするだけですぐに立ち去られていたのですが、時々は入口での立ち話し程度ですが、NPO法人を立ち上げて行政の生の情報を迅速に届ける仕事をしていらっしゃるということを伺いました。

その後は、協議会の研修会の講師として会員様の前に立って、行政情報を直接お伝えする機会をいただくこともありました。

2014年に厚労省を退官した後は、民間の検査機関で働いておりましたが、一昨年（2021年）、（公社）日本食品衛生協会に奉職することとなった際に、馬場前理事長と北村運営委員長からの熱い要請にお答えする形で運営委員の一員として当協議会のお手伝いをさせていただくこととなりました。これまでも厚労省OBとして伊藤さんをはじめとして、森田邦雄氏、榎孝雄氏、東島弘明氏等、諸先輩方が尽力されてきておりましたので、OBの一人として引き継いでいくべき義務があると考えた次第です。その後、常任理事となって少しずつ責任が重くなってきて、研修会の講師、座長等を務めてまいりましたが、いよいよ代表理事として推挙される事になった時には、これもこれまで食品衛生行政を遂行してきた中で地方公共団体、食品営業者、消費者の方々から受けてきたご支援・ご協力に対するささやかな恩返しを果たしたいとの考えから、謹んでお引き受けすることとしました。

さて、本協議会が発足した20年前に比べると、インターネットの普及拡大は想像を超えるものであり、SNSをはじめとする電子情報は氾濫としか形容詞がたく、食品関連の情報も爆発的に増大しています。何が正しい情報で、何がフェイクなのか、情報の読解力や真偽判定のための眼力が必要な時代になってきています。これこそ当協議会の活動の重要性がますます高まってきている所以であります。

また、リスク・コミュニケーションの重要性が食品安全委員会や消費者庁の創設の理由の一つとなった一方で、制度化されたがためにかえって形骸化してきているのではないかと危惧されています。

行政情報を正確に幅広く普及させるという当協議会の主たる目的に加えて、現場からの実態、疑義、意見、提案、懸念事項などを立法機関、基準策定部局、監視部門などの広い意味での行政機関へフィードバックする機能（つまり、リスク・コミュニケーションのもう一つの機能）を果たすことも重要な当協議会の役割として考えていくべきではないでしょうか。それに加え、当協議会の活動の柱である「技術相談」、「学術交換」、「調査研究」、「部会活動」を推進していきましょう。

これからの食を取りまく環境がより安全で、より安心できるものになるよう皆様と一緒に努力していく所存です。どうか皆様方の積極的な活動と格別のご協力をお願いします。

新理事長プロフィール

1954年、岡山市生まれ

北海道大学獣医学部卒 厚生省入省以来、主に食品衛生及び感染症分野に従事。

兵庫県庁に出向時には、保健所の現場での食品監視業務、と畜検査、狂犬病対策に従事。

健康局感染症情報管理室長、マレーシア保健省政策顧問、輸入食品・検疫検査センター長、生活衛生局監視安全課長、検疫所長を歴任。

「食品衛生法」、「栄養改善法」、「検疫法」等の改正、「食鳥検査法」の創設、「感染症法」の制定に従事。

現在、公益社団法人日本食品衛生協会常務理事、一般社団法人食品衛生登録検査機関協会理事長、公益社団法人日本獣医師会理事。

【理事長退任ご挨拶】

NPO法人 食品保健科学情報交流協議会
前理事長 馬場 良雄

理事長退任にあたり一言ご挨拶申し上げます。

2018年6月に理事長にご推挙頂き5年間務めさせていただきました。5年間のうち、3年間は新型コロナ感染症の影響で変則的な活動を余儀なくされましたがWEBやリニューアルしたホームページ等の活用により何とか活動継続する事が出来ました。昨年6月にはNPO食科協は20周年を迎えましたが、20周年記念事業を理事長として実行できました事光栄に思っております。理事・運営委員の皆様、講演会の講師を引き受けて頂いた方々はじめ会員の皆様のご協力、ご指導の賜であり心から感謝申し上げます。また、今回の総会にて退任されました理事の方々には長年のご指導に感謝申し上げます。

20周年食科協コミットメントにまとめています通り、世界的な状況、法規制、社会環境等大きく変化し続けております。変化を正しくとらえ、正しく理解し、正しく情報発信する事が求められており、食科協に求められる役割も大きいものがあると思います。

最近AIの発達により、AIが作成する情報も発信されることも予測され、受ける側が情報の真贋を確認する事も求められます。20周年記念事業に当たっての挨拶でも述べましたが、原子力発電所の事故後の放射能問題の当初、新型コロナ感染症の流行当初では、消費者の不安を掻き立てるマスコミ報道が続き、専門家と称する方の解説、有名人の自説発信等多くの情報が錯綜し益々消費者を不安に陥れました。マスコミを含め状を発信する側、受ける側双方の冷静かつ適切な判断が必要かと思えます。

20周年の記念講演会ではNPO食科協の設立の基本理念に立ち返り、「リスクコミュニケーション」についてご講演頂きました。情報があふれる昨近、発信する側は「真に科学的に正しい情報」を「受け手が理解しやすく」発信することを心がけ、情報を受ける側は情報の発信源を含め真贋の判断も求められると思います。NPO食科協はこの20年間一貫して科学的に判断した信念に基づく情報発信を継続してきたものと思います。

食科協が、新しい理事長、専務理事、常任理事の体制で益々発展する事を願うと共に、賛助会員、会員の皆様の今後とも変わらないご支援、ご指導をお願い致しまして退任の挨拶とさせていただきます。今後は一理事としてバックアップさせていただきます。